

## 授業改善推進プラン〈算数科〉

### 算数科における昨年度授業改善推進プランの検証

<p>&lt;成果&gt;</p>	<p>○各学年ともすべての領域・内容において、正答率が目標値を上回った。特に第6学年はすべての領域・内容で、区の平均値も上回っている。</p> <p>○個の課題に合わせた学習展開（習熟度別少人数指導）や、図や具体物の活用、ICTによる画面表示、学習のパターンの確立などで、取り組んでいる課題がつかみやすくなり、考える力が伸びた。</p> <p>○大田区ステップ学習のICTの使用やパワーアップタイムなどの取り組みが学力の底上げにつながった。</p>
<p>&lt;課題&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時間の量感の育成。</li> <li>●四則計算の複雑なもの。</li> <li>●比例・単位量あたりの大きさの概念の育成。</li> <li>●学習意欲の差の解消。特に意欲が乏しい子への対策</li> </ul>

### 算数科における調査結果の分析

	学 年	校内平均が目標値に対して－5%以上の領域と内容はない。( )は正答率が区の平均値を下回った内容	考 察
内容別結果の分析	4 年 生	数と計算	○すべての領域・内容において、目標値を上回った。 ●わり算の計算でのミスが多かった。地道に計算練習をさせたい。 ●時こくと時間の計算の仕方になじませたい。
		量と測定 (時こくと時間)	
		図形	
		数量関係	
	5 年 生	数と計算	○すべての領域・内容において、目標値を上回った。 ●表から、2つの数字の関係を丁寧に読み取る練習をする。
		量と測定 (図形)	
		(数量関係) (変わり方調べ)	
		数量関係	
	6 年 生	数と計算	○すべての領域・内容において、目標値は大幅に上回った。 ●目標値は超えているが、比例・単位量あたりの大きさの理解度が低い。2量の関係を意識する指導を心掛ける。
		量と測定	
		(図形)	
		数量関係	
観点別結果の分析	<b>課題のある観点領域</b>		
	㊦「知識・技能」    ㊧「思考・判断・表現」 ㊨「主体的に学習に取り組む態度」		
	4 年 生	○3観点とも目標値を、上回っている。しかし、いずれも、区・全国の平均値には達していないので、今後、基礎固めの指導をする。	
	5 年 生	○3観点とも目標値を、上回っている。特に思考・判断・表現の値は、目標値・区・全国の平均よりも上回っている。	
6 年 生	○3観点とも目標値を、大幅に上回っている。特に、「知識・技能」においては、目標値より15ポイント、区や全国の平均からも10ポイント高い。		

## 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 量感を養う算数的活動の充実。
- 2 数量関係についての指導の強化。
- 3 学習意欲が不足している児童への対策。

## 算数科の授業改善策

- 1 量感を養う算数的活動の充実のため、長さ、重さ、かさ（体積）、角度など、測定を伴う学習では、以下のような点に気を付ける。
  - ・測定する前に数値を予想させたり、1 kgの重さや1 mの長さのものを探す活動を取り入れたりすることで、長さや重さなどの「量感」を捉えられるようにする。1 m<sup>2</sup>の広さの中に何人が入れるか確かめたり、実際に1 kmを歩いたりするなど、体を動かすような算数的活動もできるだけ取り入れる。
  - ・測定する時間と機会とを十分に確保する。特に重さや、巻き尺を使った長さの学習では、測定機器が児童数に対して少ないことが多く、測定値を読み取る機会が不足しがちになる。一人一人が測定値を読み取る機会をもてるような配慮が必要である。
  - ・面積、体積を求める問題など、計算が中心になりがちな内容でも、できるだけどれぐらいの大きさになるかを予想してから取り組ませるようにする。
- 2 数量関係の学習の改善のため、以下のような点に気を付けて学習を進めていく。
  - ・低学年の段階で、数の見方を育てる授業を取り入れる。  
例えば、「18」はどんな数?のように、10と8を合わせた数、1が18ある。  
5と13を合わせた数。3が6つ集まっている。20から2をひいた数。  
など、発達段階に応じて、数を分析する力をつける。
  - ・中学年では、「変わり方しらべ」で2量の関係を注目させ、図に表したり、表に表したりして、関係を導かせる。その際に、比例に結び付く、2量が共に2倍、3倍に増えていく関係があるものに気付かせておく。
  - ・高学年では、2量に比例の関係があるときには、数直線を使用した考えが使い、立式できる便利さを味わわせたい。未知数を適当に四則計算に当てはめず、根拠をもった考えを、筋道を立てて説明できる能力を付けるようにする。
  - ・児童の実態に応じて、発展的な内容にも取り組めるようにする。既習の知識を活用したり、学習した問題と異なる視点で考えたりすることで、深い学びが得られるようにする。
- 3 学習意欲が不足している児童への対策として、次のような配慮をする。
  - ・地道な四則計算の練習が重要である。しっかりとときまりが定着できたり、計算ミスをなくしたりするためにたくさん練習することが大切である。
  - ・東京ベーシックドリルや、ステップ学習のプリントなどで、個人のつまづきを把握し、実態に応じた対策がとれるようにする。
  - ・習熟度別学習のクラス分けや、パワーアップタイムへの参加など、自分のペースで学習を進められる機会を多くとる。
  - ・学習内容を細分化することや、支援をこまめに行うことなどで、学習内容が理解できるようにする。
  - ・個人内での評価を重視し、以前よりも向上したことを自覚できるようにすることで、学習意欲を高めていけるようにする。